

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告とする。 公告掲載URL http://www.shindengen.co.jp/ir/ (ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。)

【お知らせ】

- 株式に関する住所変更、配当金振込先の指定、単元未満株式の買取・買増のお問合せについて

【証券会社等に口座を開設されている株主様】

口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

【証券会社等に口座を開設されていない株主様】

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行に特別口座が開設されております。

下記フリーダイヤルにお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。

0120-232-711 (三菱UFJ信託銀行証券代行部)
0120-094-777 (三菱UFJ信託銀行大阪証券代行部) } 通話料無料
インターネットアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

- 配当金の支払通知書について

租税特別措置法の2008年改正により、お支払する配当金について、配当金額や源泉徴収税額等を記載した「支払通知書」をお送りしております。

【配当金を「配当金領収証」、または「口座振込」にてお受取りになられる株主様】

「支払通知書」を兼ねる「配当金計算書」を同封しております。株主様が確定申告をする際の添付資料としてご利用いただけます。

【配当金を株式数比例配分方式にてお受取りになられる株主様】

口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

- 配当金の口座振込のご指定について

口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

- 未受領の配当金について

三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

新電元工業株式会社

〒100-0004

東京都千代田区大手町二丁目2番1号 (新大手町ビル)

TEL 03-3279-4431 (代表)

<http://www.shindengen.co.jp/>



Shindengen Electric Manufacturing Co., Ltd.

第90期 中間報告書

平成24年4月1日～平成24年9月30日

 **新電元**
SHINDENGEN

証券コード：6844

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第90期（平成24年度）の中間報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

◇当期の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要などにより内需は底堅さを見せた一方で、長引く円高や株価の低迷に加え、欧州債務危機の影響を受け中国をはじめとした新興国の輸出が減少、成長鈍化が鮮明になるなど、依然として先行き不透明な状況が続きました。

当社グループを取り巻く環境は、自動車市場がエコカー補助金の効果もあり好調を持続したほか、再生可能エネルギーとして期待される太陽光発電市場の動きが活発化し始めた一方で、世界経済の低迷により家電市場や産業機器市場は低調に推移いたしました。

このようななか、当第2四半期連結累計期間の売上高は407億23百万円（前年同期比3.7%減）となりました。利益面においては減収やタイの洪水の影響も残っていることから、営業利益は2億16百万円（前年同期比93.9%減）、経常損益は7億78百万円の損失（前年同期は25億27百万円の利益）、四半期純損益は9億5百万円の損失（前年同期は17億86百万円の利益）となりました。

当期の中間配当金につきましては、誠に遺憾ではございますが当初の予定通り無配にさせていただきました。なお、当期末配当金につきましては、1株当たり3円50銭を予定させていただきますいております。

◇今後の見通し

足元では、半導体需要に減速感が見られますが、新エネルギー分野において太陽光発電向けパワーコンディショナが計画を大幅に上回る受注水準で推移しているほか、アジア二輪車市場も緩やかに回復基調を辿るなど一部では好転の兆しが見えております。

このようななか、現時点の通期の連結業績予想につきましては、売上高863億円、営業利益15億円、経常損失3億円、当期純利益は1億円を見込んでおります。

当社といたしましては、引き続き生産性向上やコスト低減に努め収益改善に向け取り組んでまいり所存です。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解とご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成24年12月



新電元工業株式会社

代表取締役社長 山崎 雅人

◇当期のポイント

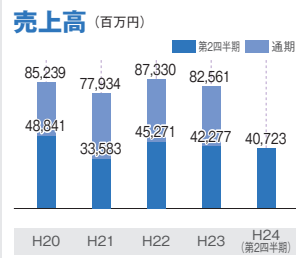
POINT-1 自動車市場向け半導体需要好調も家電・産業機器市場低迷

POINT-2 アジア二輪車市場減速

POINT-3 減収、タイの洪水、アジア通貨安等の影響で大幅減益

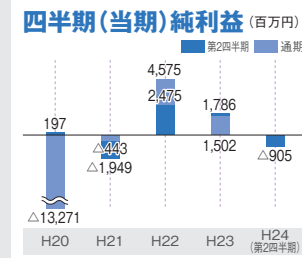
◇連結業績の推移

		第88期 (平成22年度)	第89期 (平成23年度)	第90期 (平成24年度)
売上高	第2四半期	45,271	42,277	40,723
	通 期	87,330	82,561	—
営業利益	第2四半期	4,311	3,582	216
	通 期	7,325	5,023	—
経常利益	第2四半期	3,387	2,527	△778
	通 期	6,099	3,699	—
四半期(当期)純利益	第2四半期	2,475	1,786	△905
	通 期	4,575	1,502	—
1株当たり四半期(当期)純利益	第2四半期	23.16	16.49	△9.21
	通 期	42.70	13.73	—
総資産	第2四半期	104,236	104,288	108,870
	通 期	103,336	111,920	—
純資産	第2四半期	33,428	35,472	31,524
	通 期	35,714	34,541	—
1株当たり純資産	第2四半期	294.62	314.13	293.35
	通 期	316.06	322.20	—



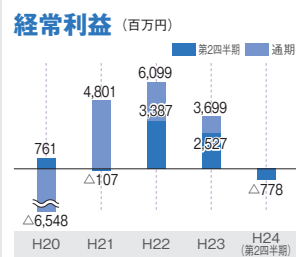
売上高 **407億23百万円** 前年同期比 15億53百万円減 **DOWN**

売上高は前年同期比15億53百万円減の407億23百万円となりました。



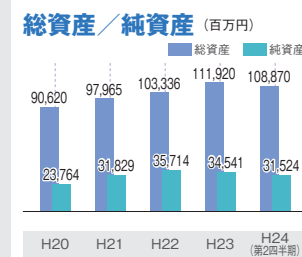
四半期純利益 **△9億5百万円** 前年同期比 26億92百万円減 **DOWN**

四半期純利益は前年同期比26億92百万円減の△9億5百万円となりました。



経常利益 **△7億78百万円** 前年同期比 33億5百万円減 **DOWN**

経常利益は前年同期比33億5百万円減の△7億78百万円となりました。

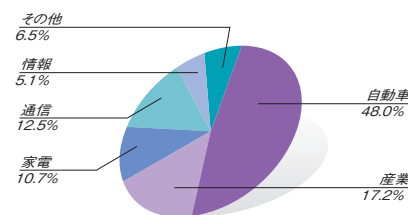


総資産 **1,088億70百万円** 前期末比 30億49百万円減 **DOWN**

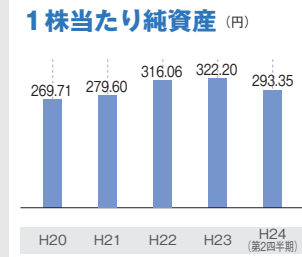
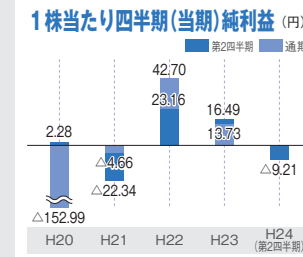
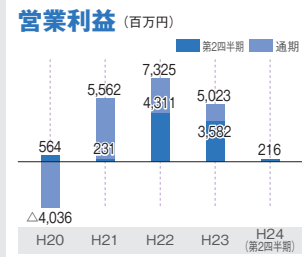
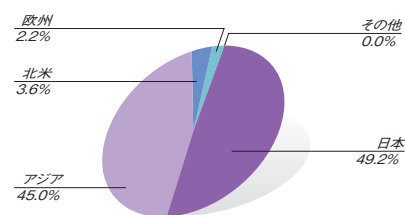
純資産 **315億24百万円** 前期末比 30億16百万円減 **DOWN**

総資産については、主に受取手形及び売掛金などの短期債権が減少したことなどにより、前期末に比べ30億49百万円減の1,088億70百万円となりました。

市場別売上構成比率



仕向地別売上比率





セグメントの状況①



セグメントの状況②

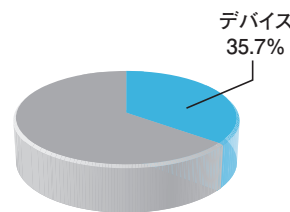
デバイス事業



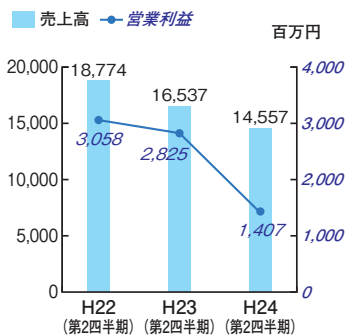
概況（平成24年度）

デバイス事業の売上高は145億57百万円（前年同期比12.0%減）、営業利益は14億7百万円（前年同期比50.2%減）となりました。

自動車市場においては、国内の補助金効果や北米での需要回復もあり小型面実装ダイオードが好調を持続いたしました。しかしながら、産業機器市場においては、中国の設備投資の減速などにより大容量の整流ダイオードが低調だったほか、家電市場においては、デジタル機器を中心にダイオードやIC製品の需要が低迷し、売上高、利益とも減少いたしました。

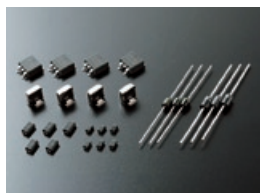
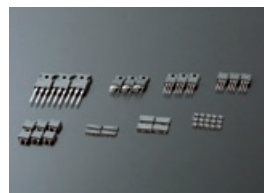


売上高構成比

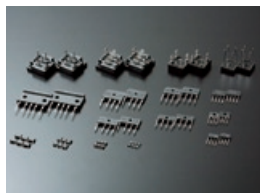


売上高／営業利益実績

主要製品



- 各種ダイオード
 - 一般整流ダイオード
 - ブリッジダイオード
 - 高速整流ダイオード
 - (ショットキーバリアダイオード)
 - (ファストリカバリーダイオード)
 - ツェナーダイオード



- サージ防護素子
- SIDAC
- MOSFET
- 各種IC製品
 - 高耐圧パワーIC
 - 省電力型パワーIC
 - DC-DCコンバータIC
 - モータドライバIC

主な用途

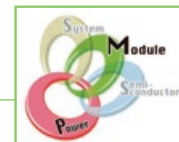
薄型TV、DVD、BD、オーディオなどのAV機器

エアコン、冷蔵庫、洗濯機などの白物家電

自動車、産業機器、通信機器

パソコンおよび周辺機器、ゲーム機器、OA機器などの情報機器

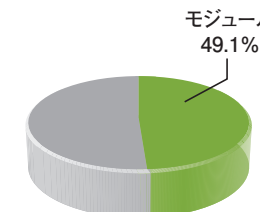
モジュール事業



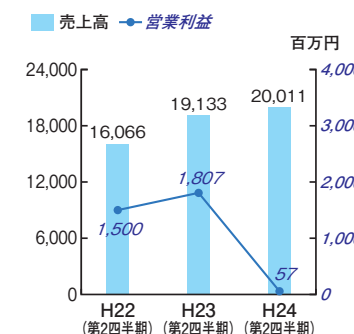
概況（平成24年度）

モジュール事業の売上高は200億11百万円（前年同期比4.6%増）、営業利益は57百万円（前年同期比96.8%減）となりました。

高成長を持続してきたアジア二輪車市場は、金融引締め策の影響を受けたインドネシアやベトナムが減速して主力のレギュレータ需要などが減少いたしました。既に底打ちし緩やかに回復基調を辿っています。汎用エンジン市場では国内における電力不足への対策として発電機用インバータ需要が堅調に推移いたしました。加えて、太陽光発電向けパワーコンディショナも上半期末から計画を大幅に上回る水準で需要が増加しており、増収となりました。一方、利益面においてはタイの洪水やアジア通貨安の影響を受けるなど大幅な減益となりました。



売上高構成比



売上高／営業利益実績

主要製品



- 電装製品
 - 二輪車用レギュレータ／レクティファイア
 - 二輪車用CDI
 - 発電機用インバータ
 - ガスコージェネレーション制御ユニット
 - 四輪車用DC/DCコンバータユニット



- 電源製品
 - 太陽光発電用パワーコンディショナ
 - LED照明用電源
 - DC/DCコンバータ(絶縁型・非絶縁型)

主な用途

- 電装製品
 - 二輪車、自動車、発電機
 - 汎用エンジン、船外機
 - ガスコージェネレーション

- 電源製品
 - 産業機器、サーバ、ストレージ装置
 - ネットワーク機器、太陽光発電
 - LED照明



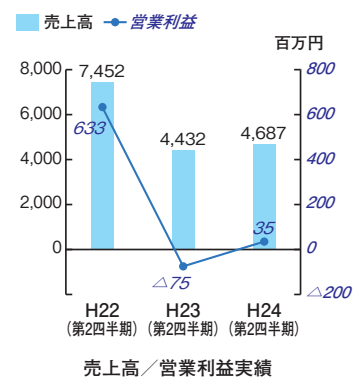
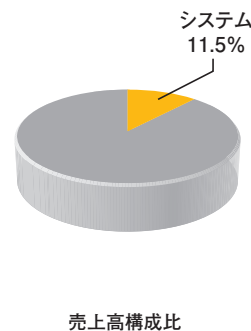
システム事業



概況（平成24年度）

システム事業の売上高は46億87百万円（前年同期比5.8%増）、営業利益は35百万円（前年同期は75百万円の損失）となりました。

国内通信市場は、基地局用電源需要が一巡しているものの、スマートフォンの拡大によりコアネットワークへの設備投資が活発化し、整流器需要が増加したほか、基幹系の電源需要が震災の影響を受けた前期から回復し、売上高は前年同期を上回りました。利益面は情報市場において厳しい価格競争が続いているものの、黒字を確保いたしました。



主要製品



- 電源製品
- 通信局用整流器
- 移動体基地局用電源
- 通信用インバータ
- 電力集中監視システム
- 情報・産業用スイッチング電源
- 成膜装置用電源

主な用途

- 通信局舎、移動体通信基地局
- IPネットワーク機器、放送局
- その他通信機器
- 電力監視機器、ストレージ装置
- 太陽光パネル製造装置
- 液晶製造装置
- EV用充電器

◇ その他

売上高は14億66百万円（前年同期比32.6%減）、営業利益は15百万円（前年同期比94.1%減）となりました。

◇◆◇カスタム・パワーモジュール事業譲受◇◆◇

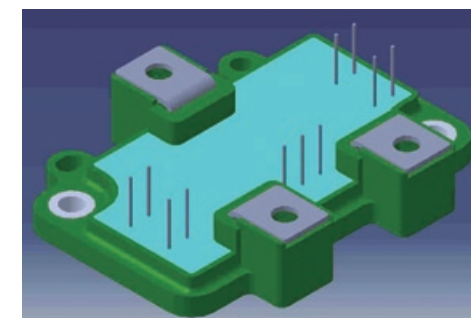
本年9月1日付けでサンエー株式会社（本社：広島県三次市、以下「サンエー社」）より、カスタム・パワーモジュール事業を譲受いたしました。

パワーモジュールは、今後の成長が見込まれるパワー半導体のなかでも特に伸びが期待されている製品です。

当社は、従前よりパワー半導体技術を活かした付加価値増大と競争力強化を目的とした「モジュール化」を推進しており、その一環として今回、サンエー社のカスタム・パワーモジュール事業の譲受に至りました。

サンエー社が開発いたしました「カスタム・パワーモジュール技術」は、独自のパッケージ技術によりお客様の要求に迅速且つフレキシブルに対応することができ、これに当社が長年培ってきた半導体技術や回路技術を組み合わせることで、他社とは一線を画した事業展開が可能になると判断しています。

10月1日からは、新たにパワーモジュール部を創設し体制を強化するとともに、従来から取り組んでおりますダイオードモジュールなどにカスタム・パワーモジュールを加え、車載および産業機器市場を中心に事業拡大を図ってまいります。



◇陸上競技部ホームページ開設!!

本年9月に当社陸上競技部のホームページを開設いたしました。

当社の陸上競技部は、昭和26年に創部。「駅伝を中心とした競技に主眼を置き、その活動を通じて社会人として誇れる人間形成と競技者としての更なる競技力向上を目指す。」を理念として、開発拠点のある埼玉県飯能市を中心に活動しています。

実業団チームではありますが、他の従業員と同様に定時まで通常業務をこなし、就業後や休日を使いトレーニングを行っています。



11月3日に行われた「第53回 東日本実業団対抗駅伝競走大会」では、チーム目標のひとつとして掲げる「全日本実業団対抗駅伝」の出場権獲得に向け出場。結果は17位と惜しくも出場権獲得はなりませんでしたが、選手全員全力を尽くしました。

こうした活動情報や結果については、随時ホームページに掲載してまいりますので、是非一度アクセスしてみてください。



<http://www.shindengen.co.jp/run/>

新電元工業陸上競技部

検索

◇会社概要

商号 新電元工業株式会社
 本社所在地 東京都千代田区大手町二丁目2番1号
 設立年月日 昭和24年8月16日
 資本金 17,823百万円
 従業員数 連結：5,226名 単体：1,096名
 主要事業所 大阪支店・名古屋支店・飯能工場

◇取締役および監査役

代表取締役社長 森川 雅人 取締役 鈴木 吉憲
 取締役 小山 三千生 取締役 根岸 康美
 取締役 川目 興 常勤監査役 横瀬 是秀
 取締役 小笠原 政教 監査役 内藤 秀彦
 取締役 荒幡 義光 監査役 三宅 雄一郎

(注) 監査役内藤秀彦および三宅雄一郎の両氏は、社外監査役であります。

◇執行役員

常務執行役員 小山 三千生 執行役員 佐々木 延幸
 常務執行役員 川目 興 執行役員 堀口 健治
 常務執行役員 小笠原 政教 執行役員 新関 清司
 上席執行役員 荒幡 義光 執行役員 田中 信吉
 上席執行役員 横井 隆晴 執行役員 根岸 康美
 執行役員 鈴木 吉憲 執行役員 佐々木 正博

◇グループ企業一覧

〈国内〉
 株式会社秋田新電元
 株式会社東根新電元
 株式会社岡部新電元
 新電元デバイス販売株式会社
 新電元スリーイー株式会社
 新電元熊本テクノリサーチ株式会社
 新電元エンタープライズ株式会社
 株式会社新電元ロジステック
 新電元メカトロニクス株式会社

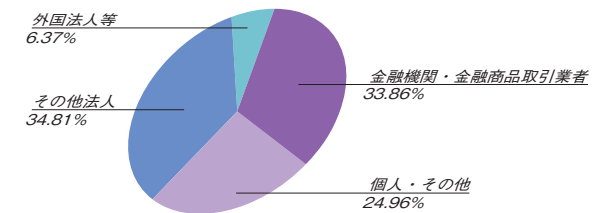
〈海外〉
 Lumphun Shindengen Co., Ltd.
 Shindengen Philippines Corp.
 PT.Shindengen Indonesia
 Shindengen Vietnam Co., Ltd.
 広州新電元電器有限公司
 Shindengen (Thailand) Co., Ltd.
 Shindengen America, Inc.
 新電元 (香港) 有限公司
 Shindengen UK Ltd.
 Shindengen Singapore PTE Ltd.
 新電元 (上海) 電器有限公司
 Napino Auto & Electronics Ltd.

◇株式の状況

発行可能株式総数 310,000,000株
 発行済株式総数 109,069,848株
 株主数 8,920名
 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
本田技研工業株式会社	13,363千株	12.25%
中央不動産株式会社	12,527	11.48
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,934	3.60
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	3,830	3.51
東京センチュリーリース株式会社	3,750	3.43
株式会社損害保険ジャパン	3,689	3.38
資産管理サービス信託銀行株式会社 (みずほ信託退職給付信託みずほ銀行口)	3,389	3.10
朝日生命保険相互会社	3,255	2.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	3,168	2.90
新電元工業協力会社持株会	2,178	1.99

所有者別株式分布状況



本書における、将来の見通しに関する記載につきましては、現時点で得られた情報に基づいており、多分に不確実な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績は、業況の変化などにより記載の見通しとは異なる結果となる可能性があることにご留意ください。